

第5学年 国語科学習指導案

い組 男子 18名 女子 18名 計 36名
指 導 者 中 野 晶 仁

1 単 元 調べたことを整理して書こう

(教材「言葉の研究レポート」光村5年上)

2 単元について

(1) 単元の位置とねらい

この期の子どもたちは、これまでに第4学年「伝えたいことをはっきりさせて書こう」の学習で、新聞で取り上げる話題を選んで取材することを通して、相手や目的に応じて書く上で必要な事柄を調べる能力を身に付けてきている。また、「調べたことを知らせよう」の学習で、アンケートの結果などをまとめたものを基にして自分の考えが明確になるように、段落相互の関係を考えて書こうとする態度を身に付けてきている。さらに、調べたことを基に考えたことを、分かりやすく相手に伝えたいという願いをもっている。

そこで、本単元では、目的や意図に応じて書く事柄を収集し、全体を見通して事柄を整理する能力を身に付けさせたい。また、文章全体の構成の効果を考え、分かったことに対する自分の考えをもととする態度を身に付けさせたいと考え、単元「調べたことを整理して書こう」(教材「言葉の研究レポート」)を設定した。

この学習は、読み手にとって必要な情報を考えて事柄を選択したり、軽重を考慮して構成を工夫したりする「相手や目的に合わせて書こう」の学習へと発展するものである。

(2) 指導の基本的な立場

教材「言葉の研究レポート」は、日頃何気なく使っている言葉についてのレポートを構成するために大切なこと、レポートを書く過程の説明、小見出しや箇条書きといったこれまで学習してきたことと資料の引用や自分の考えを取り入れたレポートなどで構成されている。言葉について疑問に思うことや気になることを思いつくままに出し合ったことわざや物の名前など、身近な言葉について課題意識をもち調べていく活動は、言葉について再認識したり、言葉の広がりを感じたりすることになり、この期の子どもたちに適している。また、目的や意図に応じて取材の内容や方法を考えながら情報を検索したり、取材したりした事柄を文章の構成や記述に役立つように整理していく点も適している。

具体的にはまず、身近な言葉について疑問に思うことや調べてみたいことを数多く出させ、課題意識をもたせる。それらの課題の中から自分が調べたいことを設定させ、学級の友達にレポートという形式で、分かりやすく伝えたいという思いをもたせる。

次に、本や文章、国語辞典や百科事典など様々な資料を用いて書く事柄を収集させる。そして、調べた内容から、読み手に伝えるために必要となる事柄を選択させたり、共通点が多い事柄を関連付けさせたりして、文章の構成や記述に役立つように整理させる。その際、互いが書き上げた文章のよさを感じ取らせるとともに、相手に助言することによって自分の考えを深めたり自分の表現の参考にしたりさせるために、作成しているレポートを友達同士で読み合わせる活動を取り入れる。

さらに終末では、活動を振り返って自分自身の高まった力を認識させるために、調べたことを整理してまとめた研究レポートの発表会を行う。その際、友達が調べた内容やその感想を受けて、自分の考えとの共通点や相違点を比較させ伝え合わせることで、子どもの言葉をさらに豊かにし、言葉への関心を高めさせたい。そして、発表会を通して高まった言葉への関心を、日常生活でも生かしたいという思いを持たせる。

これらの学習によって得られる能力や態度は、調べたことを書こうとする際に簡単に書いたり詳しく書いたりする能力や、書いたものを発表し合い表現の仕方に着目して助言し合う態度へと結び付いていくものである。

(3) 子どもの実態

本学級の子どもたちが、本教材をどのように受け止め、どのような興味関心をもっているかを調査した結果は、次のとおりである。(数字は人数を示す。)

① 初発の感想	④ 知っていることわざの数
・ 自分も課題を見付けて調べてみたい (18)	・ 5個以下 (13) 6~10個 (10) 10個以上 (13)
・ 梅雨の意味がわかってよかった (7) ・ 一つの言葉で長く書いてすごい (5)	⑤ ことわざの意味の理解
・ レポートの書き方が分かった (5) ・ おもしろそうだけど難しそうでもある (1)	・ 十分 (11) ・ 不十分 (25)
② レポートについて	⑥ 目的に応じた取材・選材
ア 聞いたこと ある (34) ない (2)	・ 十分 (25) ・ 不十分 (11)
イ 意味 調べてまとめること (15) 分からない・無回答 (15) メモすること (4)	⑦ 事実を基にした自分の考え
ウ 書く意欲 書きたい (25) どちらでもない (10) 書きたくない (1)	・ 事実と関連付けて自分の考えを述べている (14)
エ ウの理由 分かりやすい (20) 詳しく調べられる (8) その他 (8)	・ 自分の考えのみを述べている。(13)
③ 今回の学習で調べてみたいこと	⑧ 難語句 (複数回答)
・ 言葉の由来 (11) ・ ことわざ (8) ・ 四字熟語 (7) ・ 漢字の成り立ち (5)	・ 菜種梅雨 (13) ・ 春雨 (13) ・ 梅雨寒 (12) ・ 五月雨 (10)
・ ある一つの言葉 (2) ・ 百人一首 (2) ・ 花言葉 (1)	・ レポート (8) ・ 梅雨前線 (7) など

子どもたちの中には、教材文にあるレポートに興味を示し、レポートにまとめられている事柄の分かりやすさなどから、自分も何か課題を見つけて調べたことをレポートにしてみたいと感じている子どももいる。(①②)しかし、レポートとはどのような物なのかは、しっかりとらえることはできず漠然としている。これは、調べたことを見出しや箇条書きなどの形式にまとめた経験はあっても、それをレポートとして認識していないためと考えられる。(②)また、言葉の由来やことわざなどを調べてみたいと感じている子どもたちが多く、調べる対象に広がりがなく限られている。(③)そして、ことわざについて知っている数には個人差が大きい上、数多く知っている子どももその意味を正確に理解しているとは言えない。これは、日常生活の中でことわざを使ったり、自分の思いを多様な表現で表したりする機会が少なく、ことわざなどを使うよさに気付いていないためと考えられる。(④⑤)日常的に日記などに自分が調べたり考えたりしたことを豊富な話題で書ける子どももいるが、内容が単調で詳しく調べて書こうという意識が高くない子どももいる。これは、相手に伝えたいという思いを持っていなかったり、目的に応じて書く事柄を選ぶことができていなかったりするためであると考えられる。(⑥)事実を基にした自分の考えについては無回答の児童も3名いるが、これまで自分の考えを記述する経験がなかったためであると考えられる。(⑦)難語句には、教材文に取り上げられていた天気に関する言葉が挙げられている。(⑧)

(4) 指導上の留意点

以上のことから、指導に当たっては、子どもたちがそれぞれ言葉に対する課題を見付け、収集した事柄について全体を見通して整理したり、調べたことと感想・意見を区別して書いたりすることができるよう、学習内容の設定や指導方法を次のように工夫することが大切であると考えられる。

ア 身近な言葉に対して課題意識をもたせるために、疑問に思うことから知っていることや連想したことをマップに書かせ、それらを関連付けてより具体的な課題を決めさせる。また、言葉に対する理解を深めさせるために国語辞典や百科事典などの資料を積極的に使って調べさせる。

イ 書く上で必要となる事柄を選材させるために、調べた事柄が多すぎたり少なすぎたりするレポートのモデルを提示して比較させる。また、調べる過程から積極的に相互評価を行わせ、事柄に関連した自分の考えを書いている児童を賞賛し価値付ける。

ウ 調べたことを整理したレポートを書けるようになった効力感を味わわせるために、個人で作成した言葉の研究レポートと、学級で共通して作成した研究レポートを比較する発表会を行わせ、この学習で身に付いたことを振り返らせる。

3 目 標

- (1) 身の回りの言葉に興味をもち、調べたことを分かりやすく整理して書こうとすることができる。
- (2) 調べたことを関連付けてまとめ、自分の考えをもつことができる。
- (3) 課題に応じて必要となる事柄を集めたり選択したりし、調査の目的を満たす内容を考えて書くことができる。

4 指導計画（全10時間）

過程	思いを連続・発展させる心の高まり	学習課題・学習内容の構造・主な学習活動	教師の具体的な働きかけ
つかむ・みとおす①	言葉について意外と知らないものなのだなあ。	1 内容への興味の喚起と学習目標の設定 「言葉についてのマップを作り、友達と伝え合おう。」 ・マップの作成 ・単元の目標設定	<ul style="list-style-type: none"> ○ 身の回りの言葉に興味をもち、調べたいという思いをもたせるために、方言・同音異義語・ことわざなどを提示する。 ○ 言葉の広がりについて理解させるために、興味のある言葉についてのマップを作らせる。 ○ 単元の目標を設定するために、レポートのよさに気付かせ、学級の友達にレポートで言葉について調べたことを伝えるという相手意識や目的意識をもたせる。
しらべる③	体に関することわざはたくさん知っているよ。 目的に応じて選ぶことが大切だな。 体の部分には、たくさんの言葉があつてすごいなあ。	2～4 言葉の研究レポートの書き方の理解 2 「体に関係のある言葉にはどんなものがあるのだろう。」 ・共通の課題の設定 ・取材 3 「レポートはどのように書いたらよいのだろう。」 ・調べたことの整理 ・辞典の活用 4 「調べたことに対する自分の考えを書こう。」 ・調べた事柄に関連付けた自分の考え	<ul style="list-style-type: none"> ○ レポートの書き方を理解させるために、学級全体で「体に関係のある言葉」という共通のテーマのもと、レポートを作成させる。 ○ 文章の構成や内容について理解を深めさせるために、相互評価を取り入れ、互いに書き方のアドバイスをさせ合い、他の作品を推敲させる。
ふかめる⑤	ぼくは、〇〇について調べてみるぞ。 〇〇についてたくさんのが分かったぞ。 前のことを生かして自分の力で書けたぞ。 調べたことから、自分の考えをもつことができたぞ。 言葉についてたくさん知ることができたぞ。	5～9 自分の課題についての追究 5 「マップを作成し、自分の課題を決めよう。」 ・個人の課題の決定 6 「自分の課題について、調べよう。」 ・課題についての取材 7 「調べたことをレポートにまとめよう。」 ・レポートの構成 8 「調べたことについて、どんな意見や感想を書けばよいのだろう。」 ・調べた事柄に関連付けた自分の考え 9 「自分や友達のレポートを見直そう。」 ・レポートの推敲	<ul style="list-style-type: none"> ○ 課題をつかませるために、身の回りの言葉で気付いたことや疑問に思っていることを話し合わせたり、マップを作らせたりし、事柄を関連付けて課題を設定させる。 ○ 分かりやすいレポート作成を行わせるために、調べたことから必要な事柄を選ばせて表にまとめさせたり、箇条書きにさせたりする。 ○ 読み手が興味をもつレポートにするために、書き出しや小見出しの工夫、分かりやすい言葉の使用を助言する。 ○ 自分の考えを明確にしてまとめさせるために、調べたことを関連付けさせて考えを記述させたり、考えをもった理由や根拠を明らかにさせたりする。
ふりかえる・いかす①	日ごろから考えを整理して書けるようになりたいな。	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> 調べたことから目的に応じて書くことを選び、自分の考えを入れると分かりやすいレポートが書ける。 </div> 10 言葉の研究レポート発表会 「言葉の研究レポート発表会をしよう」 ・分かったことや考えたことがよく伝わるかという観点での相互評価	<ul style="list-style-type: none"> ○ 今後の生活に生かすために、学習した感想や今後どのような場面で学習したことを生かせるか交流し、言葉についての関心を高める。

5 本 時 (1/10)




(1) 目 標

身近な言葉について知っていることを発表し合う活動を通して、言葉について調べたいという思いをもち、単元の目標を設定することができる。

(2) 本時の展開に当たって

身近な言葉について調べたいという思いをもたせるために、方言・ことわざ・同音異義語などの知っていることを基に関連した言葉のマップを作らせたり、自分と友達のマップを比較させたりした後、質問や教え合う活動を設定し、言葉を広げるおもしろさに気付かせる。

(3) 実 際

過程	主な学習活動	時間	教師の具体的な働きかけ
つかむ・みとおす	1 本時の学習課題を設定する。 (1) 身近な言葉に対する疑問を持ち、調べたいという思いをもつ。 (2) マップを見て言葉の広がりに関心し、本時の課題を設定する。 言葉のマップを作り、友達と伝え合おう。	(分) 8	<ul style="list-style-type: none"> ○ 課題意識をもたせるために、方言やことわざなどの身近なことに関する問題を出し、疑問や課題をもたせる。 ○ 言葉について、関連して考えることの面白さに気付かせるためにマップを提示し、学習課題を設定する。 ○ 見通しをもって主体的に学習させるために、学習の進め方を確認する。 ○ マップの作り方を確認するために、学級全体で「体」に関する言葉について話し合い、マップを作らせる。
	2 学習の進め方を確かめる。 ○ 言葉のマップを作成する。 ○ 広がった考えや知っていることを伝え合う。 3 言葉のマップを作成する。 (1) 学級全体で体に関係がある言葉のマップを作る。  体に関係がある言葉なら、「耳が痛い」や「足が棒になる」とかを知っているよ。「寝耳に水」は、どんな意味だろう。知りたいな。	1 2	<ul style="list-style-type: none"> ○ マップを作ることで言葉が広がることを確認させるために、知っていることや調べたことを集めたマップの関連付けられているところに気付かせたり、新たに疑問に思うことを挙げさせたりする。 ○ 本時の学習内容に即してマップを作らせるために、問題に出した方言やことわざについてのマップを一人一人作らせる。
しらべる	(2) 各自で言葉のマップを作る。  同じ読み方で使い方が違う言葉は、国語辞典で調べたらたくさん見つかったぞ。		<ul style="list-style-type: none"> ● なかなか書き出すことができない子どもに対しては、机間指導の中で国語辞典を引いて意味を調べさせたり、一緒に言葉を考えたりする。
	4 互いに作成したマップについて伝え合う。 (1) 同じ言葉について調べた友達と、知っていたり見付けたりした言葉を伝え合う。 (2) 互いのマップについて質問をしたり答えたりする。  ○○君が書いていた「馬の耳に念仏」は、教えてもらえてすっきりした。今度は私もたくさん調べて友達に教えたいな。	2 0	<ul style="list-style-type: none"> ○ 言葉について調べることの楽しさを味わわせるために、グループを作らせて自分と友達の連想したものを比較させ相違点を話し合わせたり、疑問に思うことを質問させたりする。 ○ 単元の目標を設定させるために、マップを書いた感想を基に、学級の友達に自分が調べたことを伝えたいという思いをもたせたり、これまでに調査報告の形式で書いた物を想起させたりする。
ふかめる	(3) 調べたことのまとめ方を考える。 5 単元の目標を設定する。 身近な言葉について研究レポートを作り、学級の友達に伝えよう。	5	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学習したことを振り返らせるために、楽しさを数値化させ、その理由と今日の学習の感想を記述式で書かせる。
	6 自己評価を行う。		
ふりかえる・いかす			